

氏名(国籍)	モセス ムリミ ギギ (ケニア)		
学位の種類	博士(理学)		
学位記番号	博甲第4477号		
学位授与年月日	平成19年7月25日		
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当		
審査研究科	生命環境科学研究科		
学位論文題目	A Geographical Study on the HIV/AIDS Pandemic in Kenya (ケニアにおける HIV/AIDS 流行の地理学的研究)		
主査	筑波大学教授	理学博士	村山 祐司
副査	筑波大学教授	理学博士	田林 明
副査	筑波大学教授	理学博士	手塚 章
副査	筑波大学教授	理学博士	山下 清海
副査	筑波大学講師	博士(理学)	森本 健弘

論文の内容の要旨

本研究の目的は、ケニアにおける HIV/AIDS 感染の空間的拡散パターンを明らかにし、HIV/AIDS 流行をもたらした要因を解明することである。この目的を達成するため、HIV/AIDS 感染に関する既存統計資料の空間分析を行うとともに、HIV/AIDS に感染している人々を対象にアンケート調査（回答数：230人）、インタビュー調査（10人）を併用して、感染した経緯や社会的な背景を探った。

国家的レベルの分析では、NEPHAK（NPO組織）が1990年から実施してきた妊婦を対象とする HIV/AIDS 調査をデータに用いた。州（Province）別に解析した結果、ケニアの HIV/AIDS 流行には顕著な地域的差異が存在することが明らかになった。とくに特定の部族で高い感染率が認められ、流行はエスニシティと強い関連があることが見いだされた。ケニアにおける HIV/AIDS 感染の空間的拡散パターンは、基本的には従来から指摘されている階層効果や近隣効果によって説明できるが、これらに加え、ネットワーク効果も少なからぬ影響を与えていることが判明した。ケニア最大の港湾都市であるモンバサから内陸に伸びる主要ハイウェイに沿ってエイズ発症が卓越する現象が認められたのである。

次に、州単位の相関分析によって HIV/AIDS 流行と地域特性との関連性を考察した。HIV 感染率と貧困・所得格差との間には相関があり、所得が低く経済的に恵まれない地域で感染の割合が高いことが統計的に裏付けられた。感染率と人口流入率、あるいは感染率と都市化度との間には明確な相関関係が見いだせなかった。

次いで、アンケート調査の結果に基づいて、ナイロビにおける HIV/AIDS 流行と都市の社会経済的特性との関連性を検討した。GIS で作成したナイロビに居住する HIV/AIDS 感染者の分布図から、HIV/AIDS 感染の割合が高い地域は、人口が密集する地区、失業率が高い地区、そして貧困層が集中する地区とほぼ重なることが明らかになった。

この事実を踏まえ、高人口密度、高失業率、貧困層集中によって特徴付けられる地域に焦点をあてて、HIV/AIDS 感染者に対し、出生から、就職、HIV/AIDS 感染、現在に至るまでの詳細な聞き取りをおこなった。

その結果、これらの地域における高い HIV/AIDS 感染率は、地方からナイロビへの移動、およびナイロビ市内における頻繁な居住地移動によって引き起こされていることが判明した。感染者は職を求めて転居を繰り返している。彼らの頻繁な移動は所得の不均等という固定化された社会構造の反映でもある。居住環境が劣る地域ほど生活費が安く、ここに社会的弱者が引き寄せられている。とりわけここには地方出身労働者が多く、彼らは季節的に郷里と出稼ぎ場所であるナイロビを往来するが、これが HIV/AIDS の拡散を増幅させている。

本研究を通じて、HIV/AIDS 感染に関して明らかになった点として、1) 欧米文化が氾濫し、近代化が進んだこともあって、都市住民は以前より早期に性的関係をもつようになったこと、2) 集団、個人いずれのレベルでも経済力優先の社会システムが構築されつつあること、3) 民族的出自や両親の社会経済的地位が子の将来を規定するという、固定化された状況が続いていること、4) 低所得者層は以前と比べてより低い社会経済的レベルに追いやられる傾向にあること、5) 居住環境の劣る地区への移動は HIV/AIDS に感染するリスクを高めるが、貧困層がこの地域に転入しスラムを肥大化させていること、などが指摘できる。都市化、移住・貧困・低所得・エスニシティ、伝統文化、これらの複合的な相互作用が HIV/AIDS 感染の増大をもたらしており、インタビュー調査に基づくライフコース分析の結果は、HIV/AIDS 感染には構造的チャネルが存在することを示唆している。

審 査 の 結 果 の 要 旨

HIV/AIDS の流行を空間的視点から分析し、その拡散パターンと拡散プロセスの解明を試みた学術論文はきわめて少ない。HIV/AIDS 感染自体が個人のプライバシーに深くかかわるものであり、感染経路や感染理由に関する情報が得難く、これが研究の停滞を招いてきた。本研究では、200 人を越える該当者にアンケート調査を実施して、一般化するに足るサンプル数を確保するとともに、10 人の HIV/AIDS 感染者に面談し、詳細なインタビュー調査を行うことによって信頼性の高いデータの取得に努め、この問題を克服している。感染の時期や理由だけでなく彼らの居住環境、移動経歴、職業変遷、所得、学歴、日常生活などに関する詳細な聞き取りを行っている。既存の集計データ、アンケートによって得られた非集計データ、インタビューによって得られた個別の質的データ、それぞれの分析結果を組み合わせながら、HIV/AIDS の空間的拡散が都市システムや都市構造と密接に関連するとともに、発展途上国特有な社会・経済的地位の固定化や前近代的な伝統文化が感染を拡大させていることを実証的に解明した本論文は、オリジナリティに秀でた研究として高く評価できる。以上のことから、この研究は学位論文として十分な価値があると判断する。

よって、著者は博士（理学）の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。